

新しいスタンプが完成

平成30（2018）年4月1日、スタンプラリー用の新しいスタンプができあがりました。前年の平成29年は日野用水開削450年という記念すべき年でした。そこで、日野宿発見隊でもこれを記念して特製大型スタンプを製作。5月12日（土）開催の「スタンプラリー in 日野宿2018」でお披露目となりました。デザインは谷享司さん、彫りは事務局が担当しました。



スタンプラリー in 日野宿2018（第83弾）

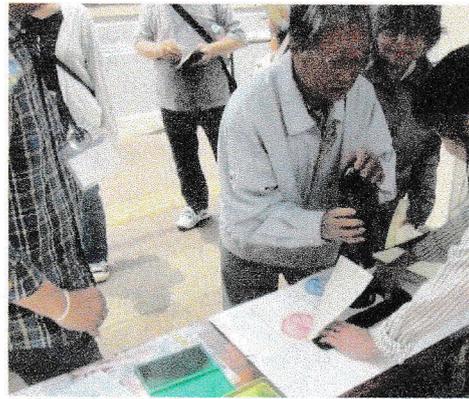
同年5月12日（土）、午前10時から午後4時まで、「スタンプラリー in 日野宿2018」（第83弾）が開催されました。

前年とはうってかわって、天候にも恵まれ、533組（日野駅東口広場：366組 日野宿本陣：83組 甲州街道駅下：84組）の方がスタンプ帳を求めてくださいました。参加者のなかには、ご家族で参加してくださった方や、遠方から毎年のように足を運んでくださる方も多数みられ、新選組まつり（土曜日）のイベントとして、認知度もますます高まってきているようです。

平成24年（2012）から始まったスタンプラリーも、回を重ねるごとにチェックポイント数も増え、人手も足りなくなり、日野市ボランティア・センターの登録ボランティアの皆さまをはじめ、個人ボランティアの皆さま、自治会の皆さま、さらに日野市職員の皆さまなど、実に多くの皆さまに支えていただきながら、何とかここまで開催するに至っている次第です。



日野駅東口広場



渡邊家蔵（中村屋）脇

毎回参加しているご夫妻



日野図書館前



ゴールでの抽選会

そんななか今回からは、日野第一中学校の生徒たち16名が午前中応援に駆けつけてくれ、新たな態勢が組めるようになりました。ポイントによっては小学生と高齢者のボランティアがいっしょに参加者の皆さんを迎えるといった微笑しい姿が見られました。

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

夏休み！親子で調べよう日野用水（第84弾）

同年7月28日（土）に開催予定でしたが、大型台風の接近が予想され、やむなく開催中止となりました。申込受付時から多数のご希望が寄せられていただけに大変残念でした。

大昌寺のお坊さんに聞く日野のおかしの話(第85弾)

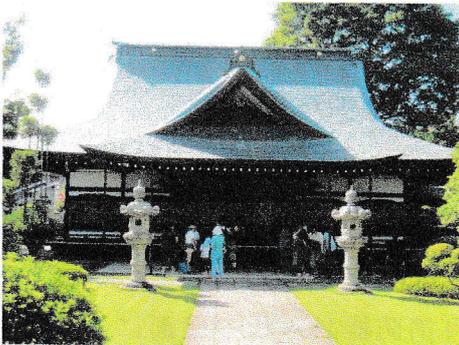
同年8月25日(土)午後3時から4時半ごろまで、宿内の古刹大昌寺にて、「大昌寺のお坊さんに聞く日野のおかしの話」(第85弾)を開催しました。

猛暑にもかかわらず、30名(子ども9名 大人21名)の参加者がありました。主催者としては子どもたちの参加を意識して準備を進めてきましたが、やはり歴史ある大昌寺だからでしょうか、浴衣姿の若い女性をはじめ年配の方まで幅広い参加がありました。

早速、杉浦ご住職から、大昌寺の歴史に始まり、ご住職の幼少期の日野宿の昔の話、また仏様の話など、興味深いお話をしていただきました。

お話のあと、2回に分けて実際に木魚をたたかせていただきました。とりわけ幼い子どもたちの木魚をたたく姿がとてもかわいらしかったです。

なお、本堂には事務局が用意した大昌寺や日野宿に関する資料を展示させていただきました。



本堂前にて受付



本堂内にて関係資料の展示



木魚の打ち方を体験中

このあと境内に出て、子どもたち8名と大人の方5名が「時の鐘」をつかせていただきました。鐘楼下でこの「時の鐘」を初めてきいた報告者ですが、日常のしがらみから解放されるような心に響く鐘の音でした。



今年も時の鐘に挑戦中の女の子！



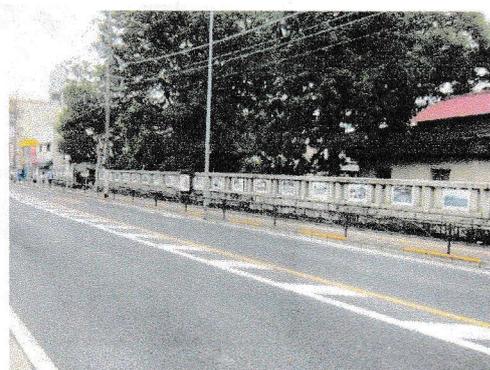
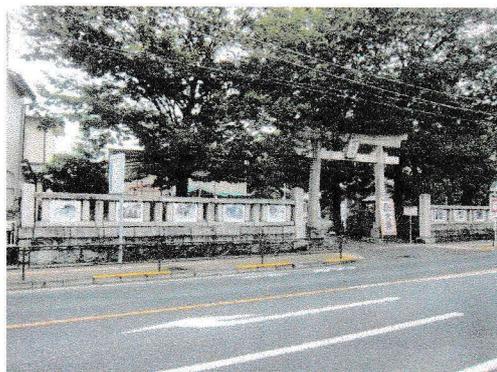
今回のように宿内の寺院のご住職からお話をうかがうのは初めてのことでしたが、私たちの申し出を快くお受けしていただいた杉浦ご住職を始め、冷たくておいしい麦茶を用意していただいた奥様にも心より感謝申し上げます。この場をお借りして御礼申し上げます。

八坂の祭り写真展（第86弾）

同年9月1日（土）より、八坂神社の玉垣、竹間家フェンス、森町消防器具置場の壁面に、明治から平成に至る八坂神社の祭りの写真を展示しました。

玉垣に25点、竹間家フェンス5点、森町消防器具置場の壁面に15点。計45点を展示しました。

新たに作製された西コースの前年撮影の写真5枚（井上博司氏撮影）は森町消防器具置場の壁面に現在も展示中です。



八坂神社の玉垣に展示された写真パネル



森町消防器具置場の壁面



竹間家フェンス

平成30(2018)年は記録的な災害が全国で多発した年でしたが、日野宿でも「まちかど写真館」として展示中の写真がかなりの被害を受けた年でもありました。これまで紫外線や風雨に何とか耐えてきた写真パネルも、強風にさらされたおかげでついに撤収せざるを得ない状態になってしまったものが多数ありました。

『新編日野百物語』（簡易版）刊行

同年10月、『新編日野百物語』の簡易版を刊行しました。これは平成28(2016)年11月に刊行した同名本の簡易版です。今回は和綴じ本ではなく、中綴じ本ですが、目次が付いています。郷土に残る昔話や伝説を知る資料として活用していただければ幸いです。

日野一中一年生の校外学習「郷土学習日野調べ

－日野の魅力－に協力（番外編）

同年11月2日（金）、午後1時半から午後4時まで、日野第一中学校からの依頼を受け、同校一年生の総合的な学習の時間「郷土学習 日野調べ 一日野の魅力」に、日野宿発見隊が協力しました。

なお、これに先立ち、10月には事前授業として、同一年生全員を対象に小杉代表の講演が行われています。

この日は、一年生全員が小グループに分かれ、各グループ毎にあらかじめ決めたテーマについて、校外講師の指導を受けながら調べるという授業内容でした。日野宿発見隊ではそのなかの「日野の地蔵・石仏について」と「日野用水について

て」の2つのグループを担当しました。

「日野の地蔵・石仏について」は加地前代表と北村さんが担当。

「日野用水について」は井上カメラマンと加藤副代表と事務局の石嶋が担当しました。

以下、「日野用水について」グループの様子を紹介します。

同グループのメンバーは、地元一小、仲田小、四小出身の生徒と、日野用水とはあまり接点がなかったという七生緑小と旭が丘小出身の生徒各1名で、計12名でした。

まず教室で、井上さんから事前に日野宿発見隊に渡されていた質問事項について、大方の質問は図書館で調べれば十分答えが得られるもの。図書館へ行って調べようとの提案。(当日、図書館で所蔵する日野用水関係の資料を持参しました。)今回は実際にまちの中を流れる用水を直接見ながら、いっしょにいろいろ考えてみようということになりました。



一中の正門を出て、目の前を流れる日野用水を下流方面に進み、旧日野宿の東の外れ、南側に旧雪印の工場跡地を見る辺りまでたどると、ちょうど近くの民間アパートの壁に架けられたパノラマ写真(日野宿発見隊作製)に昭和40年代のこの辺りの様子が写されていました。

半世紀を経て、用水を含め大きなまちの変化を生徒たちは実感できたようです。暮らしのすぐ身近に存在する日野用水。今回の校外学習がきっかけとなり、日野の宝物として日野用水をこれからもいっそう大切にしていってもらえればありがたいと思います。

日野一中生徒と用水清掃（番外編）

同年10月12日（金）午4時から、日野一中の生徒会の呼びかけで、同校のボランティア部を始め、合唱部のメンバーなど約60名近くの生徒と、日野宿発見隊の5名とで、同校近くの日野用水清掃に取り組みました。

作業中には合唱部の生徒たちの歌声も聞かれるなど、一味違った雰囲気での用水清掃となりました。また、通りがかりの皆さんからあたたかい声がかかるなど、生徒たちにとっては励みになったのではないのでしょうか。

今年も1時間ほどで、これまでと同様ごみ袋23袋ほどの雑草や不燃物を取り除きました。この日はちょっと肌寒く、またこの時期はどうしても日が短く、今後開催時期を雑草が繁る前の7月中旬などに実施してもよいのではないかとの声もありました。

それはともかく、生徒会とのコラボによる用水清掃も今年で3回目。今回は昨年、一昨年とくらべ、参加者数が少なかったものの、校内を用水が流れるという素晴らしい環境をみんなで大切にしていこうとする意識がすっかり根付いてきたようです。

高齢者が多い日野宿発見隊メンバーですがこれからも協力していきたいと思っています。

まち歩き会「まちかど写真館めぐり」（第87弾）

同年12月15日（土）午前9時半から11時半近くまで、日野宿内に「まちかど写真館」として現在展示中の約30点の写真パネルを見てまわりました。

風はなかったものの、陽の当たらないところはかなり寒さを感じましたが、総勢19名で、半世紀前の日野宿を捉えた風景や集合写真などの貴重な写真を楽しみながら、無事見てまわることができました。

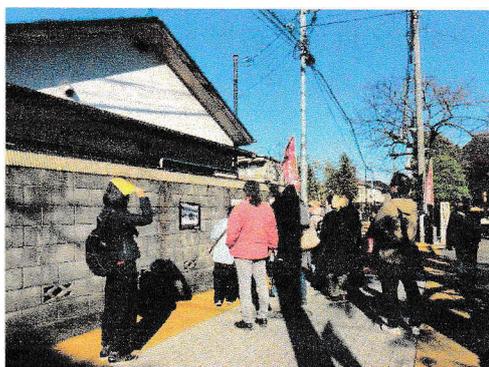
写真館めぐりを終えたあと、今回JA東京みなみのご厚意で、11時半からお昼過ぎまで旧日野市農業協同組合の大谷石の米蔵を特別に見学させていただ

きました。案内していただいた河野さんは、現在日野市万願寺にあるJA東京みなみの農産物直売所「みなみの恵み」の責任者としてお勤めです。氏の話では、就職して間もない30年ほど前には、品質検査を終えた60キロ近い米俵（麻袋）を肩に担いで、この米蔵に運び入れ、天井近くまで20段近く積み上げたそうです。最大だと2000俵も収蔵できたといいます。

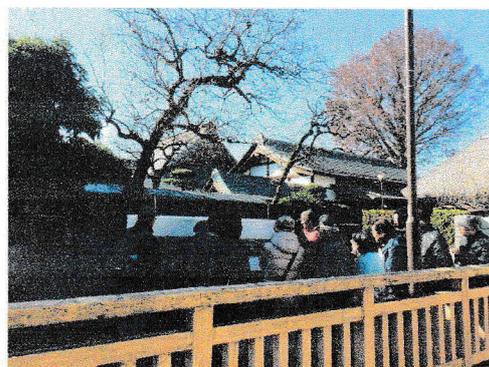
この米蔵は昭和42（1967）年10月に店舗を作った際に、川崎街道側を壊して、建設当初の三分の一の大きさになったとのこと。「多摩の米蔵」と称された日野宿を、長年支えてくれたこの立派な米蔵の存在を知り、またひとつ新たな日野宿のお宝を発見した思いです。

なお、今回の見学会では、郷土資料館の学芸員秦さんにも、「旧日野市農業協同組合の大谷石米蔵について」とした資料をもとに、説明していただきました。

河野さんと郷土資料館の秦さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。



中央公民館前の民家宅にて



大昌寺北側壁面のパノラマ写真前にて



大谷石造りの米蔵のなかで



日野駅前「日野宿イラストマップ」をリニューアル

初代の看板は、平成20(2008)年5月、「まちかど写真館 in ひの」の一環として、市内在住の地図研究家、今尾恵介さんに描いていただいた日野宿のイラストをパネル化して設置されたものでした。

しかし、その後、トラックの追突により破損したため、平成23(2011)年11月7日(月)、新たに作りかえられたものの、時が経ち表面の損傷が激しくなったため、撤去を余儀なくされましたが、日野市観光協会や日野市のご支援をいただき、平成31(2019)年1月30日、ここにリニューアルが実現しました。

イラストマップの修正を手掛けていただいた今尾恵介さんをはじめ、ご支援をいただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

日野宿内を散策する皆さん、是非このイラストマップをご活用ください。

なお、マップの左上にQRコードを付けましたので、スマートフォンなどでもご利用いただけます。

なお、3月13日(水)読売新聞朝刊に、同マップの完成を紹介する記事が掲載されました。看板前で説明する小杉代表の写真付きです。



読売新聞の取材を受ける小杉代表

まち歩き会「日野宿㊦おひなさまめぐり（第88弾）

平成31（2019）年3月2日（土）の午前9時半から昼近くまで、まち歩き会「日野宿㊦おひなさまめぐり」を開催しました。天気にも恵まれ、梅の木もあちらこちらで花を咲かせ、いよいよ春の到来を感じさせる日和でした。

今回のまち歩き会は桃の節句にちなんで、日野宿の旧家3軒を巡りました。参加者は大人18名、子ども3名、スタッフ7名の計28名でした。

図書館で点呼をとったあと、まず渡邊家（屋号「中村屋」）の店蔵を見学させていただきました。渡邊良勝さん、三保子さんご夫妻のご案内のもとに、店蔵内に展示された三保子さんのおひなさまかざりをはじめとする貴重な品々を見せていただきました。



渡邊家の蔵の中に飾られたおひなさまに
母娘でうっとり



佐藤元雄家では色鮮やかな引き札を見学

続いて、佐藤元雄家、屋号でいうと「藤屋」。あらかじめパネルにしてご用意いただいた引き札を見学させていただきました。解説は日野宿発見隊のメンバーで、日野市郷土資料館の北村さんをお願いしました。途中から元雄さんも顔をだされ、展示されたもの以外の引き札も紹介していただきました。引き札というのは現在でいえば散らし（チラシ）。当時の広告の手段として使われたとのこと。明治期、大正期の地元の松本水車や天野水車などの引き札が、とても色鮮やかな状態で現存しているのに参加者一同驚かされました。

最後は、有山董家。屋号は「綿屋」。幕末期、新選組の支援者、日野宿名主、佐藤彦五郎の四男、彦吉が養子として入った旧家です。彦吉の息子、亮氏は戦前の町長。その息子、崧（たかし）氏は2代目の日野市長。現御当主の御尊父。今回は奥様の瑛子さんに、彦吉の父、佐藤彦五郎の本陣から移設された

「上段の間」内に架けられた御内裏様を描いた御軸を中心にご案内いただきました。

冒頭、現在本陣で開催中の「おひなさまを愛でる会」の会場から駆けつけてくれた、日野宿発見隊のメンバーで伝統行事に造形の深い枝川さんと瑛子様により、御軸の説明をしていただきました。このあと、「上段の間」に掲げられた勝海舟や山岡鉄舟の書、また欄間などの彫り物を鑑賞。

かつて本陣にあったときに、参勤交代の大名や明治天皇がこの「上段の間」にてご休憩されたということを見ると、感慨深いものがありました。

今回のまち歩き会を開催するあたり、渡邊家、佐藤家、そして有山家の旧家3家の皆さまには大変お世話いただき誠にありがとうございました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。